

## ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

2014年9月吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウィンタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ委員会は15年目を迎えます。公益財団法人に衣替えして2年目の昨年度はこれまで同様、数多くのボランティアの方々をはじめ、関係組織の方々に支えていただき、活動に取り組むことが出来ました。ハンディキャップ委員会の取り組みとして ハンディキャップセミナーⅠ（10月）、ハンディキャップセミナーⅡ（1月）、五竜（1月）、車山（3月）の障がいをもつ人のためのスキー教室、鹿沢チャレンジカップスキー大会（4月）の4事業を行いました。支援活動をより良くするために開催したハンディキャップセミナーⅠでは、「視覚、聴覚障がいを持つ方へのサポート」のための基本的な障がいの理解（座学）とアイマスク・白杖等を用いて疑似体験を通し必要なサポートといった用具の理解と使用法を学んでいただき、セミナーⅡでは五竜スキー場でのアイマスク、ウエストスピーカー、介助ロープ等を使ってサポート方法の雪上実践をしました。五竜スキー教室では（参加者、ボランティア講師等を含め）総勢49名、車山スキー教室では総勢129名の参加があり、両行事ともセミナー参加者も加わって無事終わることが出来ました。4月のチャレンジカップには2日間（GS、SL）延べ12人の参加があり無事終了することが出来ました。皆さまのご協力にあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ハンディキャップ委員会では、スキーをはじめとするウィンタースポーツをより楽しみたいと望んでいる障がいを持つ方々と共に、更に前進していきたいと思っております。これまでの実践で得られた貴重な経験を踏まえ、今年度も疑似体験を通して、委員はもちろんボランティアの方々が、障がいについて理解を深め、よりよい支援活動が可能となるように「ハンディキャップセミナー（障害者のサポートについて・雪上でのサポート指導実践）」を開催いたします。1月の五竜スキー教室の前日に雪上でのサポートセミナーを実施します。また3月の車山スキー教室では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいている皆様のご協力のもと宿泊地、バスでの生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。4月のチャレンジカップスキー大会のサポートも力を注いでゆきたいと考えております。これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となってまいります。今年度（26年度）もスポーツ振興くじ（toto）助成金の交付申請が認められましたので、充実した内容で運営が出来るものと考えております。

今シーズンもハンディキャップセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室のボランティア参加もあわせてよろしくお願い申し上げます。

なお指導員、準指導員の方々は、研修会・クリニックと併設で行われるハンディキャップ行事へのボランティアとしてのご協力は研修会、クリニック参加として認められますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

（公財）神奈川県スキー連盟 総務本部  
ハンディキャップ委員会